

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成23年度 実施計画書

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	早稲田大学イスラーム地域研究機構
マレーシア側拠点機関：	マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院
() 拠点機関：	

2. 研究交流課題名

(和文)：イスラームと多元文化主義—イスラームとの共生に向けた基礎的研究

(交流分野： 地域研究、人文学)

(英文)：Islam and Multi-culturalism: A Fundamental Research Project for Constructing Symbiosis with Islam

(交流分野： Area Study, Humane Studies)

研究交流課題に係るホームページ：[http:// www.kikou.waseda.ac.jp/ias/research/aa.html](http://www.kikou.waseda.ac.jp/ias/research/aa.html)

3. 採用年度

平成23 年度 (1 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：早稲田大学イスラーム地域研究機構

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：イスラーム地域研究機構・機構長・佐藤次高

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：イスラーム地域研究機構・機構長・佐藤次高

協力機関：広島市立大学

事務組織：早稲田大学イスラーム地域研究機構

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名：マレーシア

拠点機関：(英文) The Asia-Europe Institute, University of Malaya

(和文) マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) The Asia-Europe Institute, University of Malaya , Executive-Director, Akhir Nasrudin Muhammad

協力機関：(英文) Razak School of Government

(和文) ラザク行政学院

(英文) International Institute of Advanced Islamic Studies

(和文) 高等イスラーム研究所

(英文) Centre for Islamic Development Management Studies, Universiti
Sains Malaysia

(和文) マレーシア科学大学 イスラーム発展経営研究センター

(英文) Institute of Ethnic Studies, Universiti Kebangsaan Malaysia

(和文) マレーシア・ケバンガサン大学 民族研究センター

5. 全期間を通じた研究交流目標

「イスラームと多元文化主義—イスラームとの共生に向けた基礎的研究」という課題を遂行するために、以下3点の目標を掲げた。

1. イスラームと多元文化主義の背景と現状
2. 現代科学技術とイスラームとの架橋
3. イスラームとの共生モデル構築の基盤整備

第一の「イスラームと多元文化主義の背景と現状」においては、相手国として選択したマレーシアに注目する。マレーシアでは、多元文化主義が国是として掲げられる一方、イスラームが国民文化政策の中核を占め、多民族の共生が実践されている。相手国拠点機関であるマラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院には、マレーシアの多元文化主義に関する研究蓄積が厚い。これを核として研究を進める。

マレーシアは、土着の人びとに加え、歴史的な海のネットワークにより、南インドからのインド人、中国沿岸部からの華僑が暮らす。さらに、マレー半島から離れた、文化伝統の異なるサバ、サラワク州の人びとをも抱える。また、イギリス植民地時代を経て、西欧との関係も強固となった。このような歴史的宗教的多様性の中で、それぞれのアイデンティティを維持しつつ、調和を目指す知恵が蓄積されている。多元文化主義に基づくイスラームのあり方が具体化されつつあるこの状況は、湾岸など中東を含むイスラーム地域全体の中でも特筆すべきものである。

一方、こうした多元文化主義をとりながら、マレーシアという国家のもとで国際化を成し遂げ、東南アジアをリードする経済的發展を培った。国際社会の一員としてグローバリズムを牽引してきたこともマレーシアの顕著な特色である。

今日、イスラームとの共生は、マレーシアや日本のみならず国際社会全体の課題である。イスラーム「原理主義」をはじめとしイスラームとの衝突が取り沙汰される中、グローバルな視座からイスラームとの共生を考えるためには、東南アジアや中東を含めたイスラーム地域全体と国際社会との歴史的な関係を理解することが不可欠である。特に湾岸諸国は、世界各地から異民族、異宗教の動労者を迎え入れており、多様な文化伝統とどのように

共存させていくかという問題に直面している。ジョージタウン大学カタール分校は、湾岸諸国の中でも屈指の国際政治学の研究機関であり、ここの研究者の協力を得てイスラーム地域全体と国際社会の関係を検討する。

マレーシアにおける多元文化主義の背景と現状を学術的に研究し、カタールを足掛かりに湾岸諸国などを含むより広いイスラーム地域と国際社会の関係を検討することは、イスラームとの共生モデル構築へのヒントへとつながる。この第一の目標を、2011年度の主たるテーマとして、着手する。ただし、全体テーマ「イスラームと多元文化主義—イスラームとの共生に向けた基礎的研究」を考える上で必要不可欠であるので、2012年度以降も継続するものとする。

第二の「現代科学技術とイスラームとの架橋」に関しては、日食品・薬品に関わる化学工業の問題に加え、遺伝子工学、先端的医療技術、環境問題への対応など、現代科学技術に対する、イスラームの法や倫理の対応は、イスラーム世界においてもさまざまな議論を巻き起こしている。これらの問題は同時に私たちを含む国際社会全体の問題でもある。

日本ではムスリムがマイノリティであるが、イスラーム諸国と輸出入、観光等を通じて深い関連をもつ。一方、多民族国家マレーシアにおいては、イスラームが国民文化政策の中核を占め、しかも東南アジアの中でも特筆すべき経済発展を成し遂げた。これらを考え合わせると、現代科学技術に関するイスラームの姿勢を問うことは、日本と、マレーシアとの交流意義を見出すものの一つとして位置づけられる。

東南アジアにおける先進イスラーム国であるマレーシアと共同研究・交流することによって、現代科学技術とイスラームとの間の学術的架橋の方策を考察する。この第二の目標を、2012年度の主たるテーマとするために、2011年度に共同研究の準備を進め、2012年度から共同研究を始める。

第三の「イスラームとの共生モデル構築の基盤整備」に関しては、早稲田大学イスラーム地域研究機構は、日本におけるイスラーム地域研究の拠点として、イスラーム法に基づく思想から地域特有の生活まで、多層的な研究を推進している。

この利点を生かし、さらに本事業での蓄積、すなわち2011年度から始めるマレーシアにおける多元文化主義の背景、現状、国際社会での位置づけに関する多層的分析、2012年度から始める現代科学技術に対するイスラームの対応という視点からの分析とその成果の上に、最終年度たる2013年度には、イスラームとの共生モデル構築のための基盤を整備する。

これを基に、さらなる研究を続け、最終的にはイスラーム理解のための日本における国際的センターの確立を目指すものである。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成23年度から開始

7. 平成23年度研究交流目標

「研究協力体制の構築」

相手国拠点および研究協力機関との研究ネットワーク構築のために、8月までに、2度のミーティング(研究者交流)を、早稲田大学とマラヤ大学で開催する。意見の交換を行うとともに、今後の計画を吟味する。また、マラヤ大学におけるマッチングファンドについても相談を行う。

8月には以下に述べるサブテーマに沿って、マレーシアおよびカタールで共同調査を行い、11月開催のセミナーの企画を練る。共同調査では、日本側研究者が現地に赴き、現地の研究者および大学院生が参加する調査とする。

11月には、今年度の目標「イスラームと多元文化主義の背景と現状」をテーマとしたセミナーを日本で開催し、8月の共同調査の結果を報告するとともに、上記目標に関して討論を行う。

また、11月のセミナー開催の際に、来年度の計画を話し合うミーティングを開催する。

「学術的観点」

本年度の研究目標は「イスラームと多元文化主義の背景と現状」を明らかにすることである。イスラーム国家マレーシアで理想的理念として提案された多元文化主義に対して、マレーシアと日本が、多様な民族・宗教間における調和とアイデンティティの観点から共同研究を進める。

そのために、まず、マレーシアにおける研究蓄積を共有する。さらに、都市居住と初等・中等教育という面からマレーシアにおける多元文化主義の実践的側面を探る。加えて湾岸諸国など中東を含めたより広いイスラーム地域と国際社会との関係を検討する。これら一連の共同研究を通じて、学術的基礎的データを収集し、グローバル社会におけるイスラームとの共生に向けた議論を深める。これらの共同研究によって、多元文化主義実践の学術的知見を確立することができる。

「若手研究者養成」

修士課程および博士課程に属する大学院生、あるいはポスト・ドクターなどの若手研究者に対して広く門戸を開き、積極的な参加を呼び掛ける。共同調査に大学院生の参加を募り、分野を超えた交流を深める。

また、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院のもつアセアン大学ネットワークのハブとしての役割を利用し、広く東南アジアの大学院生に当事業の存在を呼び掛ける。日本側においても、ネットワーク型「イスラーム地域研究」を通して、早稲田大学に限らず多くの大学から若手研究者の参加を促す。

「課題独自の目的」

初年度においては、研究交流目標「1. イスラームと多元文化主義の背景と現状」をテーマとする。そのために

- 1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有、
- 1-2. 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明、
- 1-3. マレーシアにおける初等・中等教育の実情、
- 1-4. イスラーム地域における近代的な主権概念の成立

をサブテーマとして設定し、日本側と相手側の参加する研究グループを作成して交流を深める。4つのサブテーマをそれぞれ共同研究として位置付ける。また、サブテーマをそれぞれ独立した研究課題とするのではなく、「イスラームと多元文化主義の背景と現状」という大きな研究課題を考える上での分業とする。

8. 平成23年度研究交流計画概要

8-1 共同研究

2回の研究者交流、8月のマレーシアでの共同都市調査および初等・中等教育調査、およびカタールでの共同研究、さらに11月開催のセミナーを通して、サブテーマを単位とした共同研究を遂行する。以下、4つのサブテーマごとの交流計画を記述する。ただし、それぞれが個別の課題とならず、共同してイスラームと多元文化主義を考えられるよう、お互いの情報を共有するために事業参加メンバーのメーリングリストを整備し、逐次研究経過を報告する。

1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有

日本側協力研究者オマール・ファルーク(1-7)と相手側研究協力者 Hamidin Abd Hamid (2-3) が中心となって共同研究を行う。マラヤ大学において、マレーシアの多文化主義に関する研究資料の蓄積をまとめ、本研究参加者全員がネットを通して共有できる形にする。

ただし、実際の作業と研究は、8月までの研究者交流の際、および11月開催のセミナーの際に行い、その後はインターネットを通じて共同研究を進めるために、特に共同研究として、「10-1 共同研究」の課題としては設定しない。

マレーシアは、イスラームを国教とし、多民族国家を維持するために多元文化主義を実践している。その実践から、効果あるいは問題点を学ぶことは、国際社会におけるムスリムとの共生の観点から有用である。マラヤ大学における多元文化主義の研究蓄積を、日本の多層的な手段を有するイスラーム研究者が参加する共同研究を通して考察する。

その成果を、以下に述べる共同調査、歴史都市および初等・中等教育からみたマレーシアの実情と比較することによって、実践的な状況が導き出される。また湾岸諸国における主権概念と比較することによって、単にマレーシアにとどまらず、より広いイスラーム地

域との関係を考察することができる。また、ネットワーク型「イスラーム地域研究」を通して、日本の研究者に発信することによって、より大きな視点としての「イスラームとの共生における多元文化主義」を考察することが可能となる。

1-2. 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明（共同研究整理番号 R-1）

日本側研究協力者深見奈緒子(1-3)と相手側研究協力者 Akhir Nasrudin Muhammad(2-1)を中心として共同研究を行う。8月に、港市として歴史的に多様な建築的蓄積をもつペナンとムラカを対象として、宗教施設の分布等、歴史的市街地におけるすみわけの調査を行う。当調査には、マラヤ大学 Faculty of Built Environment に所属する大学院生の参加を募る。調査結果を11月のセミナーにおいて発表する。

マレーシアが国家として多元文化主義を標榜する以前から、歴史的港市においては、多様な民族と文化が積層、混交していた。マレーシアの歴史的都市において、その状況をとらえ、現代の多元文化主義以後のクアラルンプールの居住状況、あるいは日本におけるマイノリティとしてのムスリムの居住状況と比較することによって、多元文化主義の中での都市居住の在り方を提案することができる。

1-3. マレーシアにおける初等・中等教育の実情（R-2）

日本側研究協力者鴨川明子(1-16)と相手側研究協力者 Jainabee Kassim(2-11)を中心として共同研究を行う。多民族国家であるマレーシアの初等教育においては、マレー語、中国語、タミル語、英語などの言語別の教育が行われているものの、必ずしも民族に対応するとは限らない。また、中等教育においては、マハティール政権のもと、多元文化主義を取り入れ言語を混合した教育が試されたが、問題点も多い。

教育の面においては、それぞれの民族の垣根を越えマレーシア人として共存するための国民意識を養うという多元文化主義の側面と、マハティール政権のもと英語での理科系科目の授業に見るように国際人としての英語教育という、相反する側面が同居する点がマレーシアの特色である。

教育という実践面における多元文化主義の効果と逆効果をとらえることによって、イデオロギーとしての多元文化主義の側面から、社会状況の側面へと研究を深化させることが可能となる。

1-4. イスラーム地域における近代的な主権概念の成立（R-3）

日本側研究協力者佐藤尚平(1-8)とカタール研究協力者 Mehran Kamrava(2-12)を中心として共同研究を行う。8月には佐藤が中心となってドーハとアブダビなどで共同調査を行い、カタールとアラブ首長国連邦(UAE)の主権概念の発展に関わる資料の収集と整理を行う。調査にあたっては、同大学外交政策学部の大学院生の参加を募る。調査結果を11月のセミナーにおいて発表する。

グローバル社会におけるイスラームとの共生を考えるためには、東南アジアや中東を含めたイスラーム地域全体と国際社会との歴史的な関係を理解することが不可欠である。特にカタールと UAE は、マレーシアとほぼ同時期にイギリス帝国から独立を達成して近代国家として成立するなどマレーシアと共通項が多い一方、その誕生過程については研究が進んでいない。近代的な主権概念の成立は、国際政治史の最も根源的な問題でもあり、資料の収集という基礎的段階から検討することによって、イスラームと国際社会との共生に向けた歴史的な展望を得ることができる。また、カタールと UAE は、独立の経緯において双子の関係にあるだけでなく、多数の外国人労働者との共生という課題を抱えている点でも共通する。両国を対照しながら検討することによって、イスラーム地域と国際社会全体の共生に向けた歴史的な考察が可能となる。

8-2 セミナー

11月に早稲田大学において「1. イスラームと多元文化主義の背景と現状」のセミナーを開催する。サブテーマにそって、1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有、1-2. 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明、1-3. マレーシアにおける初等・中等教育の実情、1-4. イスラーム地域における近代的な主権概念の成立という4つのセッションを設ける。サブテーマお互いの成果を総合して、「イスラームと多元文化主義」の解明に努めるために、セミナーを相互横断的なものとして位置付け、総合セッションを設ける。なお、セミナーには、相手国の研究協力機関からも研究者を招聘し、共同研究の成果を発表する。

セミナー開催の際には、大学院生を対象としたワーク・ショップを計画し、セミナーに参加する専門的研究者による指導・交流の機会を準備する。ワーク・ショップではパネル・ディスカッション、ポスター・セッションを準備し、若手研究者の能動的参加を促す。イスラーム地域研究を目指す若手研究者にとって、「イスラームとの共生」は、フィールドや研究手法が異なっても、重要な現代的課題であるので、多くの若手研究者に刺激を与えることができる。

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

本年度は初年度にあたるため、3年間の計画および本年度の計画の詳細を詰めるために、東京とクアラルンプールでミーティングを行う。ただし、事務的打ち合わせだけでなく、上述したように、サブタイトルに沿った共同研究を兼ねるものとする。

また、日本側協力機関である広島市立大学に所属するオマール・ファルークおよび北海道大学に所属する佐藤健太郎が、早稲田大学に出張を行い、年間3度の打ち合わせを予定している。

9. 平成23年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 <人/人日>	マレーシア <人/人日>	カタール <人/人日>	UAE <人/人日>	<人/人日>	合計
日本 <人/人日>		6/44	1/20	1/20		8/84
マレーシア <人/人日>	7/28					7/28
<人/人日>						
<人/人日>						
<人/人日>						
合計 <人/人日>	7/28	6/44	1/20	1/20		15/112

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人・日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

10/28 <人/人日>

10. 平成23年度研究交流計画状況

10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	23年	研究終了年度	25年
研究課題名	(和文) 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明 (英文) A Historical Study of Residential Diversity in Traditional Urban Areas				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 深見奈緒子・早稲田大学イスラーム地域研究機構・教授 (1-3) (英文) NAOKO Fukami, Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Akhir Nasrudin Muhammad (2-1) The Asia-Europe Institute, University of Malaya, Executive-Director				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先	日本	マレーシア		計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		1/14		1/14
	<人/人日>				
	<人/人日>				
	合計		1/14		1/14
	<人/人日>				
	② 国内での交流 人/人日				
23年度の研究交流活動計画	ペナンとムラカにおいて、マラヤ大学と共同で、宗教建造物、コミュニティのすみわけの調査を行う。				
期待される研究活動成果	ペナンとムラカという歴史的都市における多様な居住文化を明らかにする。				
日本側参加者数					
	1名	(13-1 日本側参加者リストを参照)			
マレーシア国(地域)側参加者数					
	1名	(13-2 マレーシア国(地域)側参加者リストを参照)			

整理番号	R-3	研究開始年度	23年	研究終了年度	25年
研究課題名	(和文) イスラーム地域における近代的な主権概念の成立				
	(英文) The Evolution of the Modern Norm of Sovereignty in the Islamic World				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 佐藤尚平・早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手(1-8)				
	(英文) SATO Shohei, Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, Research Associate				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Mehran Kamrava, Center for International and Regional Studies, Director (2-12)				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先	日本	カタール	UAE	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		1/20	1/20	2/40
	<人/人日>				
	<人/人日>				
	合計		1/20	1/20	2/40
	<人/人日>				
	② 国内での交流 人/人日				
23年度の研究 交流活動計画	カタールと UAE において、両国の誕生過程に係わる資料の収集、整理を行う。カタールにおいては、ドーハのカタール財団の各図書館を中心に作業を行い、UAE においては、国立公文書館や各研究所の附属図書で調査を行う。				
期待される研究 活動成果	マレーシアとほぼ同時期にイギリスから独立したカタールと UAE に着目し、両国における近代的な主権概念がどのように発展したかを明らかにする。イスラーム地域における近代的な主権概念の成立過程を検討することで、イスラームと国際社会との共生に向けた歴史的展望を得る。				
日本側参加者数					
	1名	(13-1 日本側参加者リストを参照)			
カタール国(地域)側参加者数					
	2名	(13-2 マレーシア国(地域)側参加者リストを参照)			

10-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) イスラームと多元文化主義の背景と現状
	(英文) Background and Present State of Islam and Multi-culturalism
開催時期	平成 23 年 11 月 11 日 ~ 平成 23 年 11 月 12 日 (2 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、東京、早稲田大学
	(英文) Waseda University, Tokyo, Japan
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 佐藤次高・早稲田大学イスラーム地域研究機構・機構長 (1-1)
	(英文) SATO Tsugitaka, Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, Dean
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (□日本以外での開催の場合)	

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
	A.	
日本 <人/人日>	A.	4/16
	B.	
	C.	15/30
マレーシア <人/人日>	A.	5/20
	B.	
	C.	
<人/人日>	A.	
	B.	
	C.	
合計 <人/人日>	A.	9/36
	B.	
	C.	15/30

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>4つのサブテーマ、1-1. マレーシアにおける多元文化主義の背景、1-2. 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明、1-3. マレーシアにおける初等・中等教育の実情、1-4. イスラーム地域における近代的な主権概念の成立に関する共同研究の成果を発表する。加えてこれらの研究を総合し、多元文化主義が現代社会が抱える大きな問題の一つであるイスラームとの共生に対してどのような役割を果たせるのかを検討し、本事業の最終的な目標である「イスラームとの共生モデル構築」への基盤とする。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>イスラーム国家マレーシアで理想的理念として提案された多元文化主義の実践的側面を、マレーシアと日本が、多様な民族・宗教間における調和とアイデンティティの観点から共同研究することによって、イスラームとの共生に向けた、学術的基礎的データを収集するとともに、多元文化主義実践の学術的知見を確立することができる。</p> <p>「マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」においては、マレーシアにおける多元文化主義の実践が、どのような問題点を解決、あるいは生じさせたのかを明らかにすることができる。</p> <p>「歴史的都市における居住に関する多様性」に関しては、ペナンとムラカという歴史的都市における多様な居住文化を明らかにし、政策としての多元文化主義における現代的状況との比較を可能とし、多様な文化が共存する今後の都市の在り方を提案する。</p> <p>「マレーシアにおける初等・中等教育の実情」からは、教育という実践面から、イデオロギーとしての多元文化主義が、どのように社会状況に適応し、効果あるいは問題点を引き起こしているのかをとらえることができる。また、各種言語による多元文化主義と英語教育によるグローバリズムの共存の解明も重要である。</p> <p>「イスラーム地域における近代国家の主権概念と国際社会との関係」からは、湾岸諸国など中東を含めたより広いイスラーム地域における主権概念の成立過程を検討することで、イスラーム地域と国際社会との共生に向けた歴史的な展望を得ることができる。</p> <p>これらの諸成果を統合することにより、イスラームを単に多様性あるいはグローバリズムの中に閉じ込めるのではなく、他者との共生という側面において、イスラームにどのような可能性があるのかを明らかにする点が学術的な価値を持つ。</p>

セミナーの運営組織	早稲田大学イスラーム地域研究機構が中心となり、共同利用・共同研究拠点イスラーム地域研究、NIHUプログラムイスラーム地域研究を基盤とする。一方、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院を中核とするアセアン大学ネットワークに呼び掛け、参加者を募る。		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	金額
		外国旅費(マレーシア～日本)	76万円
		国内旅費	28万円
		アルバイト謝金	9.5万円
		文具購入	2万円
		ポスター等広報	20万円
		消費税等	4.5万円
		総額	140万円

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣元 \ 派遣先	日本 <人/人日>	マレーシア <人/人日>	計 <人/人日>
日本 <人/人日>		4/16	4/16
マレーシア <人/人日>	2/8		
<人/人日>			
合計 <人/人日>	2/8		6/24
② 国内での交流 6/12 人/人日			

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
早稲田大学イスラーム地域研究機構・教授・湯川武	マレーシア・クアラルンプール・マラヤ大学	5月5日～8日	23年度のセミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。24年度以後の共同研究テーマの相談および研究者の人选。

広島市立大学・教授・オマール・ファールーク	マレーシア・クアラルンプール・マラヤ大学	5月5日～8日	23年度のセミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。24年度以後の共同研究テーマの相談および研究者の人选。
早稲田大学イスラーム地域研究機構・教授・深見奈緒子	マレーシア・クアラルンプール・マラヤ大学	5月5日～8日	23年度のセミナーの相談。23年度「R-1. 歴史的都市における居住に関する多様性の歴史的解明」に関する共同調査のマレーシア側の大学院生参加者の調整。
早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手・佐藤尚平	マレーシア・クアラルンプール・マラヤ大学	5月5日～8日	23年度のセミナーの相談。共同研究のテーマ、「R-2. マレーシアにおける初等・中等教育の実情」に関する共同調査のマレーシア側の大学院生参加者の調整。
The Asia-Europe Institute, University of Malaya, Executive-Director, Akhir Nasrudin Muhammad	日本・東京・早稲田大学	6月24日～27日	23年度の研究計画の吟味、および共同研究、セミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。マッチングファンド申請に関する相談。
Razak School of Government, Director, Hamidin Abd Hamid	日本・東京・早稲田大学	6月24日～27日	23年度の研究計画の吟味、および共同研究、セミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。マッチングファンド申請に関する相談。
広島市立大学国際学 研究科・教授・オマール・ファールーク	日本・東京・早稲田大学	4月16日～17日	23年度の研究計画の吟味、および共同研究、セミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。マッチングファンド申請に関する相談。

北海道大学文学部・教授・佐藤健太郎	日本・東京・早稲田大学	4月15日～16日	23年度の研究計画の吟味、および共同研究、セミナーの相談。共同研究のテーマ、「1-1. マレーシアにおける多元文化主義に関する資料の共有」についての作業の相談。マッチングファンド申請に関する相談。
広島市立大学国際学研究科・教授・オマール・ファルーク	日本・東京・早稲田大学	7月2日～3日	6月のマレーシアでの共同調査およびセミナーの相談に対する検討。
北海道大学文学部・教授・佐藤健太郎	日本・東京・早稲田大学	7月2日～3日	6月のマレーシアでの共同調査およびセミナーの相談に対する検討。
広島市立大学国際学研究科・教授・オマール・ファルーク	日本・東京・早稲田大学	1月14日～15日	本年度のまとめと来年度の計画に関する相談。
北海道大学文学部・教授・佐藤健太郎	日本・東京・早稲田大学	1月14日～15日	本年度のまとめと来年度の計画に関する相談。

1 1. 平成23年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	640000 円	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3277500 円	
	謝金	475000 円	
	備品・消耗品購入費	100000 円	
	その他経費	310000 円	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	197500 円	
	計	5000000 円	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500000 円	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5500000 円	

12. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額（円）	交流計画人数<人／人日>
第1四半期	1320000 円	8／28
第2四半期	2160000 円	6／72
第3四半期	1400000 円	9／36
第4四半期	120000 円	2／4
合計	5000000 円	25／140